

# ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218  
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

1999年(平成11年)7月15日 No. 1130

## 目次

拡大続く米口貿易、米国の対口投資.....	小川 和男 1
日本と中欧諸国との貿易の推移.....	11
CIS諸国通貨の最新為替レート.....	14

## 拡大続く米口貿易、米国の対口投資

### —実績、拡大の背景—

はじめに ロシア東欧経済研究所では、当研究所『調査月報』（1999年2月号）において、日米貿易が著増し、1997年のドイツの対口輸出が90億ドルを超え、日本の対口輸出の9倍に達していることを紹介した。ロシア経済の混迷が続き、市場化が円滑に進まないことが、日米貿易不振の要因になっていると一般に言われているが、ドイツ企業はロシア市場の激変に即応した輸出戦略を展開し、大きな実績を挙げている。

米口貿易の拡大も顕著であり、米国は近年、ロシアにとってドイツに次ぐ世界第2の貿易相手国に浮上し、その地歩をゆるぎないものになっている。米口貿易の規模は日米貿易の3倍を超えると同時に、米国はロシアへの最大の投資国である。

ロシア東欧貿易会では、小川和男経済研究所所長、小林薫産能大学教授、清水正俊経済研究所副所長、吉田臣吾嘱託の4人から成る代表団が去る5月上旬、「第14回ロシア経済研究日米シンポジウム」の開催・参加のために米国を訪問し、ジョージ・ワシントン大学（ワシントンD.C.所在）およびカリフォルニア大学バークレー校において、「ロシア経済危機の継続：その原因、帰結および展望」ならびに「日・米・中・ロ4カ国の関係」の2つのテーマでシンポジウムを実施すると同時に、米国議会図書館調査局や米ロビジネス協議会などを訪ね、意見交換を行った。

この「第14回日米シンポジウム」の成果と米国のロシア研究専門家や対ロビジネス専門家たちとの討論の成果を踏まえて、また、今回入手できた最新の米国資料を参照して、本稿では米口貿易の拡大と背景について紹介することにした。